

発行所 日本キリスト教団 なか伝道所  
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 203  
Tel. (045) 671-1109  
振替 00200 - 1 - 47369  
E-Mail: naka@church.jp http://church.jp/naka/  
発行者 石倉夕子 (題字 松橋 順)

## 宣教方針

- ① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
- ② 地域の問題に関わる。
- ③ 諸教会に呼びかけてゆく。

集会 主日礼拝 日曜日 午前10時30分より

## 世の片隅で続けられているわざ



お話中の貴田和子さん

### 横浜家庭学園 貴田和子 さん

さまざま原因で家庭や学校・社会で生活することが難しくなった子どもたちの、育ち直しや立ち直り、社会的自立に向けた支援を実施しているのが、「児童自立支援施設」です。今回は、「児童自立支援施設」の一つで、キリスト教の精神で運営されている「横浜家庭学園」で、牧師・心理士として働かれている貴田和子さんをお招きしてお話を伺いました。

### 「最後の砦」として

横浜家庭学園は、児童福祉法で定められている児童自立支援施設です。児童自立支援施設は児童福祉法における「最後の砦」と言われています。子どもたちがこれより重い社会的な問題を起こすと法務省管轄の少年院に送られることになり、その一歩手前の、福祉の世界での一番最後の場所となるからです。児童自立支援施設と言ってもよくわからないかもしれませんが、以前は感化院あるいは教護院と呼ばれていた所です。

私は今日の話を「世の片隅で続けられているわざ」としました。世の中表に出てくるような中身ではない。ひたすらそこで過ごしながらも、やがてそこを離れた時にはその存在すら忘れなさい・・・というような、そういう場所での話ということで、この話を付けました。

児童自立支援施設は、児童福祉法第四四条で「不良行為をなし、又はなす恐れのある児童及び家庭環境その他の環境上の理由により、生活指導等を要する児童を入所させ、又は保護者の下から通わせて、個々の児童の状況に応じて必要な指導を行い、その自立を支援し、合わせて退所した者について相談その他援助を行うことを目的とする施設」と規定されています。不良行為をしたり、あるいはこのままでは不良行為をするようになってしまうだろうというような家庭環境の中にある子どもを收容して、生活指導をしていく所です。ある程度生活

が落ち着いてから家庭との外泊訓練を繰り返して、もう大丈夫と言える状態になって家庭に返すということもやっています。

児童福祉の対象となるのは一八歳になるまでですが、それは普通は高校三年生の途中で、まだ大人の手や目が必要な年代です。もう少し見てあげたいと思うけれど、それでも福祉としては切られてしまう。そんな時は、措置延長という形を取って見守りま

す。退所しても学校で問題が起きたり、先生に信じてもらえなかったりというんなことが起きるので、何かあったら連絡しなさい、遊びにおいて・・と声掛けをする。そして、帰って来た時には慰めたり励ましたりと、そんな関わりはずっと続いていきます。ただ子どもたちはいいことがあった時は連絡して来ても、反対だとなかなか連絡が来ないことも多いです。

### 歴史と入所経路

横浜家庭学園は、我が国最初の女子教護院でした。その歴史は古く、一九〇六年に横浜刑務所典獄であった有馬四郎助が私財を投じて幼年保護会を設立したことに遡ります。有馬は、北海道時代に教護師として着任し、後に霊南坂教会牧師になった留岡幸助に深い影響を受けてキリスト教に入信します。そして子どもも大人と同じように監獄に入れられていた現状を憂い、少年少女たちの更正施設として小田原に「幼年保護会」や、女子専門の「根岸家庭学園」などを設立しました。これが一九一四年に保土ヶ谷区に移転して横浜家庭学園と名称

を変更。一九九八年に児童福祉法改正により  
から児童自立支援施設となつて今  
に至っています。

児童自立支援施設は全国に五八施設です  
が、この中で民間は北海道の家庭学園(男  
子)と横浜の家庭学園(女子)だけです。

入所経路は、①家裁審判による送致(少年  
法に基づく家庭裁判所の保護処分決定に  
従つての入所)と、②児童相談所からの措  
置(保護者や学校からの相談、警察からの  
通告を受けた児童を児童相談所・所長が措  
置する)です。今まで自由気ままに生活し  
ていた子どもが、集団の中で規則正しい生  
活をしていくためには相当の自覚と覚悟が  
必要ですが、①の場合は強制的に入れられ  
たという気持ちなので、なかなか難しいで  
す。一方②では児童相談所が親身になつて  
動議づけをしてくれるので、みんな頑張つ  
てやっています。ともかく私たちの願い  
は、ふんばつて学園での生活を送り、無事  
に出ていくことです。

学園の定員は五〇名(今年度は暫定定員  
二四名)で、現在の在籍数は一九名(小学  
生三名、中学生七名、中卒児九名(うち通  
信制高校在籍八名)です。学園には高校課  
程がないため高卒の資格を取るとは大変  
で、中卒での就職は厳しいものがありま  
した。しかし、昨年から通信制高校への進学  
ができるようになり、高卒の資格を取つて  
就職したり、また短大や専門学校への進学  
の道も開けました。

学園では園内で学科教育をしています。

講師も含めて職員は授業も受け持ちます。  
なぜなら生活と授業はいつも連動してい  
て、生活でいろんな問題が起きると影響は  
授業にも現れて、授業が成り立たなくなる  
こともあるからです。どうしても授業が出  
来ない時には、それを生活指導に変えるこ  
とが必要になってきますが、生活を見てい  
る職員が授業をすることで、子どもたち  
により入りやすくなつていきます。ただ法律  
が変わり公教育を児童自立施設にも入れな  
ければいけないことになりました。学校教  
育の世界から追い出されてきた子どもたち  
が施設の中で同じように学校教育を受け入  
れることができるのでしょうか。すでに実  
施している他施設の話を伺うと憂えます。

また、学園はキリスト教を基盤としていま  
すが、キリスト教教育の扱いがどうなるか  
も大変危惧するところです。  
職員は全部で三二名(うち常勤一八名)。  
このうち直接指導員一名は園内に住み込  
んで二四時間子どもたちの世話をしていま  
す。

### 学園での生活

今年度私が教えるのは、聖書・作法・保健・  
国語です。作法の自身は、箸の持ち方や挨拶  
の仕方、お茶の入れ方といった、家庭で  
母親が子どもたちに教えるようなこと。あ  
るいは七夕・敬老の日・七五三など、日本  
に伝わる伝統行事についてです。保健では、  
性の問題や犯罪から自分の身を守ることも  
教えます。また小学校五・六年の国語では、  
中学進学を控えた六年は普通の授業です

が、五年は絵本を読みながら基礎学力をつ  
けていきます。  
ここにいる子どもたちは、経験不足のた  
めに「わからない」と言うことが多いです。  
学校に行つてもちゃんと授業を受けないの  
で、物事を知らない。家庭の中でもかまっ  
てもらえないので経験不足……。そのよ  
うな中で園の基本方針は、①環境の調整(あ  
たり前の生活の保障。基本的生活習慣を身  
に付ける)。②心身の強健と情操の陶冶(学  
科指導、スポーツや作業の指導、宗教教育)。  
③悪癖の矯正と除去、となつていきます。  
子どもたちは三つの家族舎に分かれて生  
活しています。それぞれの舎を一人の職員  
が母親役をする形で担当し、小さい子から  
大きい子までを五〜七人ぐらいで縦割りに  
して生活しています。食事は一ヶ所に全員  
が集まつて皆で食べ、実習科の子どもたち  
は食事づくりの手伝いもします。毎週の日  
曜礼拝や毎朝毎晩の礼拝もあります。自分  
を振り返り、自分に関わつてくれた人のこ  
とを考える時間でもあります。

勉強では、珠算・英語・漢字・書道の検  
定試験の他、高校卒業程度認定試験などに  
挑戦しています。学校については、子ども  
たちの籍は出身校にあるので、卒業の場合  
は在籍校から校長先生・担任の先生などが  
来園し、皆の前で証書授与をします。面会  
が出来るのは、家族・学校の先生・児童相  
談所ケースワーカーと心理司です。  
スポーツは積極的に取り入れています。  
①心身の強健、②他者との協調、③健全な

集団生活が目的です。マラソン・水泳・バ  
レーボール・ソフトボール・卓球……。子  
どもたちは入つてきた時は、どのスポーツ  
も大抵やったことがありませんが、全員全  
部の種目に取り組みます。  
たとえば水泳では、夏休みの半ばには、  
五〇メートルを一〇〇本(五〇〇〇メー  
トル)泳ぐ「一〇〇本祭り」があります。子  
どもたちは全員、最後までやりきります。  
もちろん直接指導員も可能な限り参加しま  
す。それぞれの競技には、関東地区にある  
一二の児童自立支援施設が参加する関東大  
会、神奈川県内にある児童福祉施設が参加  
する県大会などがありますが、長い間の念  
願が叶つて、昨年は全部の大会で全種目優  
勝して五冠を取りました。学園に来なかつ  
たらやったこともないスポーツで優勝し  
た……。これは子どもたちにとって、大きな  
自信になりました。

### 立ち直りのために

学園での厳しさは、外に出て躰いた時に  
「あんなに頑張つたのに今の自分は何だ」  
と、自分でもう一度立ち上がっていく力に  
もなつていきます。子どもたちは、元気で  
行動力があります。落ち着いたら優しさも  
出てきます。それらをうまく伸ばして使え  
たらいいと思うのですが、社会がその長所  
をうまく使っていないとも思います。

学校や地域にも見捨てられてきた子ども  
たちは、入つて来た時は自己肯定感が低く、  
また人間不信です。

(四ページに続く)

使信

かみ

# 「この神だからこそ」

石倉夕子

やがて、子供は育つて乳離れした。アブラハムはイサクの乳離れの日に盛大な祝宴を開いた。

サラは、エジプトの女ハガルがアブラハムとの間に産んだ子が、イサクをからかっているのを見て、アブラハムに訴えた。「あの女とあの子を追い出してください。あの女の息子は、わたしの子イサクと同じ跡継ぎとなるべきではありません。」

このことはアブラハムを非常に苦しめた。その子も自分の子であったからである。神はアブラハムに言われた。「あの子供とあの女のことです。苦しまなくてもよい。すべてサラが言うことに聞き従いなさい。あなたの子孫はイサクによって伝えられる。」

しかし、あの女の息子も一つの国民の父とする。彼もあなたの子であるからだ。」アブラハムは、次の朝早く起き、パンと水の革袋を取ってハガルに与え、背中に負わせて子供を連れ去らせた。ハガルは立ち去り、ベエル・シエバの荒野をさまよった。

革袋の水が無くなると、彼女は子供を

本の灌木の下に寝かせ、「わたしは子供が死ぬのを見るのは忍びない」と言って、矢の届くほど離れ、子供の方を向いて座り込んだ。彼女は子供の方を向いて座ると、声をあげて泣いた。

神は子供の泣き声を聞かれ、天から神の御使いがハガルに呼びかけて言った。「ハガルよ、どうしたのか。恐れることはない。神はあそこにいる子供の泣き声を聞いた。立って行って、あの子を抱き上げ、お前の腕でしっかりと抱き締めてやりなさい。わたしは、必ずあの子を大きな国民とする。」

神がハガルの目を開かれたので、彼女は

水のある井戸を見つけた。彼女は行って革袋に水を満たし、子供に飲ませた。神がその子と共におられたので、その子は成長し、荒れ野に住んで弓を射る者となった。彼がバランの荒れ野に住んでいたとき、母は彼のために妻をエジプトの国から迎えた。

(創世記二二章八節〜二二節)

## 「アブラハムの苦悩」

今日のお話はテレビのワイドショーが好きなお話をします。タイトルの付けるとすれば、「アブラハム氏憔悴 二人の妻の骨肉の争い、跡継ぎは誰の手に」なんて感じで連日報道されそうな内容です。実はこのお話は私も大好きなお話の一つです。内容は見ての通りアブラハム一家の平和な生活がサラの過酷な要求によって崩れてしまふ様子が書かれています。

まず八節は物語の導入です。人の一生の中で、節目の出来事が書かれます。誕生や結婚そして死の記述が大切な場面として

旧約聖書にはよく出てきます。今日の乳離れ人生の大きな節目でした。乳離れのお祝いとありますがここだけの記事です。当時は子どもが乳離れさせられるのは三歳位でした。これは誕生の次に重要な出来事だったようです。当時の社会では(今も第三世界においては)三歳までの乳児期を生きるのが大変でした。なのでこの乳離れの祝いは、人生最初の危機を乗り越えたことを祝うものです。何気ない記事ですがこの部分から当時の状況がわかります。

## 「サラの苦悩」

九節〜一〇節が二人の妻のうちの一人、サラの苦悩が描かれます。諦めていた跡継ぎとなる子どもが、年老いてからできたサラの苦悩です。当時一人の女性にとつて、跡継ぎを生むということがどれほど重要な事かということはこれまでもお話してきました。彼女の未来は息子の中にか存在しないのです。サラにとつてもそうです。イサクの未来が彼女の未来なのです。もう一人の妻であるエジプト人のハガルはもともとサラの召使でした。子どものできなさいこと、跡継ぎが生まれないことを心配したサラが、ハガルによって跡継ぎを設けることを提案したのです。しかし今や状況は違います。サラは恥も外聞もなく息子イサクに肩入れするので、「このはしためとその子を追い出して下さい」これがサラの要求でした。この要求にアブラハムは

とても悩みますが神の進言もありハガルと

## ネーとね

(ある日の礼拝後、愛餐の準備を皆でしている時)

手持ちぶさたの石倉牧師に……

美宇「おひまですか？そしたらうちらにお座りください。」

今からお茶会を始めますね。」

(みごとおままごと)に石倉牧師をさそった 郭美宇 三歳

イシユマエルを荒野に送り出します。

## 「ハガルの苦悩」

一四節からハガルの苦悩が始まります。もう一人の女性の苦悩です。幼児をつれた女がたった一人で荒野に放り出されたのです。持たされた水や食料はいつまでももつはずがありません。一五節～一六節に死に直面したハガルとイシユマエルの様子が描かれます。いつの時代も女性の置かれる状況は変わらないと思わざるをえませぬ。ワイドショーならハガルは悲劇の女性です。

## 「泣き声に応えた神」

しかし神様のシナリオはここで終わらないのです。神様は子どもの泣き声を聞かれるのです。一七節の後半から一八節はか

なり編集の手が加えられています。編集者は一八節後半の「私は彼らを大いなる国民にするであろう」という編集句を入れることによりイスラエル民族だけでなく世界を支配する神のイメージを語りたかったのではないのでしょうか。この物語の古い形では一九節は二七節前半に直接ついていたと言われています。「神はわらべの声を聞かれた。そして神がハガルの目を開かれたので・・・」です。私はこの部分から今日のタイトルをつけました。世界を支配する神のイメージ、これは後に「支配」「植民地主義」という形でキリスト教が継承していく神のイメージです。しかし私

ここから読み取れるのは、子どもの泣き声に反応してくれた神の姿です。小さな小さな

な出来事にこころを留められる神の姿です。だからこそ私は神様を信じると言えます。この神だからこそ、ハガルの苦悩を心に留め、イシユマエルの小さな小さな泣き声にこころを留められた神だからこそ、信じられるのです。

## (二ページ)の続き)

虐待や家庭環境の複雑さから、こうなったのは親のせいや先生のせいだと人を責めます。自虐的で極端で、自分を守るために相手を攻め、あるいは自分の体を傷つける。一般家庭で育ててきた子どもが普通に獲得しているもの・・・ちゃんと叱られること、ギョツと抱きしめてもらえること、しっかりと見守られること・・・そういう体験がありません。そこからスタートしての、育て直しを大切にしています。

学園では問題が起きないようにするのはなく、敢えてぶつかって、おもいつきり問題を起こしてもらおう。そのことを通して、どうやってその問題を片付けるか、どうやって人とうまくやっていくかの対処の方法を、なるべく沢山身につけて欲しいのです。お互いに語り合ったり、問題を起こしたり相手とぶつかることで、その時どうするかを生活の中で学んで欲しいと思います。

(文責 渡辺幸子)

## まど

八・一五に寄す

渡辺 英俊

松陰出づ続くは乃木か東郷かテレビドラマに軍靴聞こゆる  
松陰を崇め尊徳の像を建つ大和魂の国民学校

平和への悲願のみならず戦ひの業火を通れ生き残れるは

この民の悲しき性か「侵略」を「反省」すと直に言ふを厭へる

「戦争法案」と言はれて腹を立てるらし戦争法を造るやからが

「崇高な理想」を謳ふ憲法が猫に小判となるかこの国

一千万の血の贖へる遺産なり「崇高な理想」は押しつけならず

征き征きて死ぬ人無かれ靖国に祀らるる人二度とあらざれ

「出て行け」と叫ぶこの国が怖いと言ふ在日の友あり「戦後七十年」

この国の鉄の扉を叩かむとす難民認めよの署名集めて

「くに」といふはふるさとを謂 王を囲む「国」にはあらず国境あらず

多文化の交じり幸ひ言霊の賑ふ「くに」になれや列島

## 編集後記

真剣に向き合い、ぶつかり合う家庭学園での生活。立ち直ろうとしている子どもたちを応援したいと思えます。(幸)

